

洛外閑話

第44回

淳豊堂

吉田昭二

「メンコ銭二題」

難題ともなり、とりとめのない状況に陥りそうです。

穴あき銭の収集対象としての繪銭類は、大切な類品としての地位は確立されてはいますが、何処まで集めて良いものか、区切りと申しますか、目標が立てにくく、見るもの、触るもの全てに手をださねばならないほどに、行き付く先が見えないように想えてならず、一を得れば二を求め、五が集まれば十を望み、百を得ても満足できないような、何かに突き動かされて何処までも進み、密林に迷い込んで、身動きができなくなるのではないかと心配になるような分野に思えるのです。

ここで「メンコ銭」と書きはしましたが、その製作は「穴一銭」に通ずるものも多く、繪銭の中で、単純に厚肉になったものとの選別など、分類としての線引きが仲々

勿論、そんな姿は繪銭に限った

ことではなく、穴あき銭のどの分野にも起こること、泥濘に両足を突っ込んでいる迂生が、いまさ何を話しだすのかと自身でも可笑しく思いますが、ころ加減に繪銭とはお付き合いせねばならないと戒めたいところではあります。が、振るいつきたくなるほどの味を持つているものも多いのですから、熱烈な愛好者が輩出してきたのも頷けます。

今回は、熱を入れて集めているわけではありませんが、チョット面白いと、勝手に思い込んでいるメンコ銭（面子銭）を二題、お聴きくださいますか。

「わあ〜、厚い〜！」

先日、泉友がご愛蔵なされている、銭面に貨幣の銭文が用いられ

ている所謂「文字繪銭」の一群を拝見する機会がありました。

流石に、あらゆる分野に精通なされている方だけあって、拘って集めておられる品々を一枚一枚を手にするだけで、今までに過ごされてきた、充実した姿が如実に顯われていると感じたものです。

するとその中に、一層際立って見えるものがあるのです。

「わあ〜、厚い〜！」

取り上げて、思わず声がでました。

「何やこれ、むちゃくちゃ厚いやんか」

「吉田さんも、そう思われますか」

「いや〜、すごい！」

「ねえ、そうでしょ」

「うちにも幾つか厚いもんあるんやけど、これほどのモンは無いわ」

「やつぱり」

「いや〜、参りました。厚さ、計ってみたいもんやね」

「何処でもこんなん、見たことないと思うんです」

「ここまでのもんは、無いな」

「そう云うてくれはったら、嬉しいです」

「う〜ん」

迂生、後に続く言葉がありませんでした。

今までに、これほどまでに厚いものを見たことはないのですが、世間は広いのですから、どんなものがあるかは判りませんが、確かにこれは一文銭の形状からすれば、尋常な厚さではありませんし、何よりも、その面文の銭名が明の崇禎通寶（拓図①）なんです。



拓図① 明・崇禎通寶
写しのメンコ銭

もし厚さ自慢の類品を集めさせて、その競技会が開催されたとすれば、一方の旗頭に押し立てられるには十二分な貴禄がありそうです。

皆さまもご存知のとおり、明銭を写した繪銭も多く、手許には大中通寶、洪武通寶、永樂通寶、宣徳通寶、万曆通寶がありますが、この崇禎通寶は始めて入手するものでした。

手許のもの分厚いものはどれだったかなと、アレコレ想いを巡らしているときに、身体の何処から、何時もの声が沸き起こってきたのです。

——欲しい！——

小半時ほど後には、懇願が叶って興入れ話は纏まっていた。

元来、古泉の寸法を計測器で計るのはあまり好きにはなれないのですが、こればかりは異なりまして、家に帰って早々に、手前ものも引っ張り出して目盛りを視たものです。

この崇禎通寶は、厚さが約八・二六ミリメートル、重さも三二・二グラムもありました。今まで持っていたもので、一番厚い政和通寶篆書の両面錢（拓図②）は、厚さが約六・八三ミリメートルで、重量は一九・六グラムでした。

お世辞にも美品とは云えないこ

ものの来し方を想像しますと、これほど厚ければ、子供が遊ぶメソコとしての戦果は良かったはずで、錢体の疵は戦鬪の向こう傷なのか、いや戦わず、本陣にどつかと据えられて戦況を見ていたかもしれませぬ。

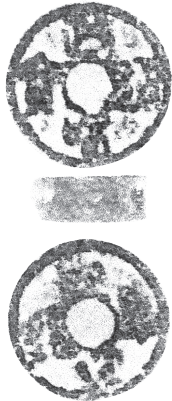
皇朝錢を象った繪銭は和同開珎が随分と多く、メソコ錢としての和同開珎（拓図④）も知られていますし、『繪銭の相場』には隆平永寶のメソコ錢が掲載されていますから、萬年のメソコ錢が有っても可笑しくないと、入手したのです。

最後に、提示しました神功開寶（拓図⑧から⑩）は、長刀ながたの面文を用いたもので、「寶」字の王劃辺りが「ノ」字に変化していますから、一瞥して特異なものとして選別できます。

皇朝錢銘のメソコ錢
先日、某オークションで萬年通寶（拓図③）を落札しましたが、肉は左程厚くはないのですが、繪銭と思えるもので、感覚からしてメソコ錢の類ではないかと思いました。

掲載していません長崎貿易錢の元豊通寶（拓図⑥）や、明の洪武通寶（拓図⑦）などはメソコ錢だと思わ

これには大潤縁から可成り小さくなったもので、長期間に铸造



拓図②
北宋・政和通寶篆書の両面錢
これも可成りの厚さがあり、両面であるところなども面白い。



拓図④
和同開珎のメソコ錢
和銅が国の最初の貨幣だとは皆の共通の認識だったでしょうから、繪銭の図柄に選ばれることが多かったのでしょう。



拓図③ 萬年通寶
横点萬年の写しです。皇朝錢の古泉家向けの偽物との見方もできそうですが、そんなイカガワシイものとはせずに、子供向けのメソコ錢だと想いたいのです。